

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3992600043		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム和夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町佐賀3179-7		
自己評価作成日	平成23年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成24年2月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

太平洋を180度の大パノラマで望みむ高台に立地し、自然豊かな環境の中で四季の景観を365日満喫して穏やかに過ごせる環境にある。同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスと合同で行う行事に参加し幅広く地域との交流が出来る。緊急時等における事業所間の連携、協力体制も整っており、入居者の安全と豊かな暮らしを支援できる。又、家庭生活の継続を考えた取り組みとした家族宿泊もできるようになっている。敷地内には畑もあり、収穫の野菜を手に触れる事ができ、楽しむことが出来る。方針として「今日笑顔より明日の笑顔を求めて」とし、入居者皆様の尊厳を重視しながらプライバシーの保護へ職員の教育につとめている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokouhyou.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=3992600043&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会		
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ		
訪問調査日	平成23年12月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

太平洋を一望できる国道沿いの高台に位置する事業所は、静かで自然豊かな環境の中に立地している。隣接する特別養護老人ホームと通所介護事業所は同一法人の運営であり、日頃から利用者同士が交流し、年間行事や防災訓練等を合同で開催するなど、協力体制が築かれている。近隣に民家がなく、地域住民との日々の接触は少ないが、職員のほとんどが地元の住民であることから、地域の情報には明るく、昔からの地域の祭りや運動会に利用者も参加するなど、事業所として地域に溶け込む努力をしている。また、事業所の防災訓練に地区長が参加したことをきっかけに、地震による津波避難場所として、法人施設で地域住民を受け入れる契約を締結するなど、地域住民とのつながりの強化にも努めている。管理者は交代して3か月足らずであるが、利用者の心身の活性化を目指し、ラジオ体操や貼り絵を取り入れるなど、ケアサービスの工夫に努め、職員とともに理念に沿った支援の実践に努めている。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時から地域密着型の理念を作成しており、日頃より職員会などで職員全員が、その意味を共有し、実践に向けて取り組んでいる。	開設時に作成した独自の理念を持ち、職員会や毎日の業務の引き継ぎ時等に確認している。職員会では、管理者が理念の持つ具体的な意味について説明し、実践に活かす努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた立地条件のため、近隣との交流はないが、隣接の特別養護老人ホーム、デイサービスセンターの利用者との交流がある。また町内の運動会や祭りにも出かけて交流のきっかけ作りに努めている。	事業所は高台にあり周辺に民家が無いことから、地域住民との日常的な交流は難しいが、地域で行われているかつお祭りや町内の敬老運動会等の行事に積極的に参加している。また、法人の系列施設の利用者や保育園、小・中学校の子供達との交流も行うなど、地域との関係が継続するように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政と連携して、家族や地域の方々への認知症介護についての相談窓口となっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーである行政や家族、地域の代表からの意見や要望が出されている。ホームへの理解も得て、双方向に意見を交わし、意見交換などの記録もとっている。	会議では、個々の利用者の状況、事故、行事、職員の異動、家族会の内容、行政からの連絡事項などを報告し、これらについて意見交換を行っている。ただ、自己評価や外部評価等の取り組み状況の報告はなく、事業所の課題などを掘り下げて議論するまでに至っていない。	運営推進会議の目的や役割を再度確認し、会議の意見をサービスの質の向上に活かせるよう、会議の議題、メンバー構成、進行方法等について、見直しや工夫をすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括センター、住民課などと意見交換を交わし、施設の情報を報告し地域からの情報も聴いている。	町の担当者とは、介護保険に関する連絡の機会等を利用して、行政の取り組み状況を聞いたり、事業所の状況を伝えるなど、日ごろから連絡を取りあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修には積極的に参加する体制であり、日常的には拘束の是非に関する勉強を職員会に取り入れている。玄関の施錠は夜間の22時以降としている。	職員会で、身体拘束に係る研修会に参加した職員が報告をしたり、マニュアルを使って学習するなど、身体拘束をしないケアについて職員の理解を深めるようにしている。外出傾向のある利用者もいるが、ケアの方法を工夫しながら、見守りの支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より利用者の尊厳について考え、正しい行動のもと介護に当たっている。虐待を見過ごすことのないよう、職員がお互いに注意し合い取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会で成年後見制度について説明するなど、権利擁護の理解や尊厳の保持も含めて職員への周知徹底に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分説明して納得してもらうよう取り組んでいる。家族が県外の場合にはその後も連絡を取り合うなど、理解してもらうよう配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見は受け入れる姿勢を持ち、今後の運営につなげるように心がけている。年一回の家族会には、家族間のみで話し合えるように配慮している。日頃の入居者とは食後のコーヒータイムの折、意見を聞くことが出来ている。	家族と連絡を取る時には、個別に家族等の意見や要望を聞くようにし、年1回開催する家族会にもほとんどの家族が出席している。家族会の時に家族だけで話し合う時間も設けているが、出された意見の確認は行っていない。	家族だけの話し合いの場でも出された意見について些細なことでも汲み上げ、運営に反映させる取り組みを期待したい。また、どの家族も運営推進会議に出席できたり、出席できなくても家族には会議の内容を知らせるなど、全家族が事業所の状況を知り、運営に対する意見を出し易くするような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会では施設長も出席し、代表として連絡事項なども連絡されている。職員は日頃の業務に関する意見も出るなど共通認識が図られている。	全職員が出席する月1回の職員会には施設長も出席し、運営に関する職員の意見を汲み上げるようにしている。毎日の引き継ぎ時などにも職員から意見がよく出ており、事業所内での手作業が少ないという提案を受けて、クリスマスカードの作成や貼り絵に挑戦するなどの取り組みが増えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価を通じて代表者は職員の勤務状況等を把握し、職員も動きやすい職場環境や人間関係を築くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修には積極的に参加を心がけている。職員からの希望は取り入れられている。各自が技術の向上に努めている。日頃も各自の資質向上の為、代表者は協力の姿勢を持っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会に参加し、他の施設との意見交換や、情報を聞くことで、反省や参考に取り入れられている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族訪問時に、ご本人とご家族を交えて不安や問題点を充分話し合い、解決方法を提案するなど信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面接時に情報収集を行い、ご家族の不安や要望を充分聞きながら、生活支援の説明を行い信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスや援助について、早期に把握し、希望にそった内容になるように計画している。入所時には特に家庭生活に近づけた希望や施設ではどのような希望があるか、初期のサービスのプランに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気を基本として、スタッフと入居者が共存し合い日々の個々の暮らしに付き添う事を心がけている。入居者にも出切る事にはお手伝いをして頂き、共通の話題から親しい関係づくりを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に協力体制を持ちながら、家族の立場も考えて、本人の気持ちを見守りながら両者を支えている担当スタッフとの関係もできている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人から定期的に電話があったり、趣味も継続している。外部からの面会には交流がスムーズに出切る様気配りする事で地域との関係が継続されるように支援している。隣接の特養へは日常的に出入りする事で、馴染みの友人との関係つくりを図っている。	隣接するデイサービスや特別養護老人ホームを利用する友人や知人に事業所を訪ねてもらったり、面会に行くなど、交流が継続するように支援している。また、通院の途中で自宅に立ち寄ったり、馴染みの美容院へ同行したり、昔から行われている地域の祭りに参加するなど、地域との関係保持にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話からも一つの家族としての関係が築かれている。弱い立場の人に手を差し伸べるなど、孤立する事は全く見られず、スタッフも側面的に十分支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も地域で再会する折に近況を話し合ったり、思い出話するほか、必要に応じて相談や支援もしている。また折に触れて差し入れなど頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意向にそえるように努めている。把握が困難の場合は、家族から情報を頂くことになっている。担当のスタッフは日頃から関わりの中に意向や希望も聞き、ケアプランにも反映されている。新規入居者時にもまず生活の中での希望を聞き取っている。	入所時に本人や関係者から聞き取った思いや意向に加え、その後の日々の関わりや家族からの情報等を職員間で共有することにより、本人の思いや意向を把握するように努めている。思いや希望を汲み取るため年2回行っている「生活改善調査」は今年はまだ実施していないが、継続して実施する予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階において、家族やケアマネジャー、ソーシャルワーカーなど関係者から情報収集を行うとともに、入居後も聞き取り等を通じて把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の流れや心身の状況、残存機能を把握しながら、その人らしくを常に気配りしている。就寝、起床時間もそれぞれの主体性に任せ寄り添った援助にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎のモニタリング、6ヶ月毎のアセスメント、担当職員の意見、家族の要望等も踏まえ、職員会で検討し、本人の状況に沿った介護計画を作成している。退院後などの状況の変化に合わせて随時見直しを行っている。	担当者を決め、利用者との日々の関わりや家族とのやり取りで得た情報に加え、定期的なアセスメントやモニタリングなどを踏まえ、全職員でカンファレンスを行い、本人の状況に即した介護計画を作成している。変化が生じたときは、その都度計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を客観的に把握しつつ、会話の内容なども個別に記録している。その記録をもとに職員間で現状を共有し、日頃の援助や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	統一的なケアと、その日その日に解決が求められるケアに発想を活かして柔軟に対応する事を常に念頭に置き、日々の業務に取り組むよう申し合わせている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握したうえ、利用者がその都度参加できる体制づくりに配慮し、何よりも安全な生活を保障した支援を心がけている。また、地域の婦人部の踊りや生バンドの演奏など豊かな暮らしの支援につなげている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時点でかかりつけ医を伺い希望により継続も可能、協力医の変更も可能の事説明する。定期的な通院も管理者が同行、受診結果は家族へ連絡する、職員には情報の周知の為引継ぎ帳で共有している。	利用者、家族が希望するかかりつけ医に受診している。かかりつけ医、専門医ともに、受診時は管理者が同行し、結果を家族に報告している。受診結果は記録して、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックや体調の変化は、管理者に報告し、週1度の訪問看護の際に相談などしている。介護職員は日常の関わりの中のなかで常に気を配り、報告を励行し早期対応につながるよう取り組んでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族や病院関係者との情報交換や現状の把握などに努めている。また、退院に向けての調整などに配慮し、各病院のソーシャルワーカーとも連絡をとりながら関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の重度化に応じて早い段階から話し合いを行なう事、終末期の際家族の希望の聞き取りなどを入居の際申し合わせている。過去に看取り支援を行なった例もあるが、主治医、家族と連携が取れていた。今後も必要の折職員会で検討し、支援体制は整えていく。	入居時に重度化や終末期への対応方針について説明を行っている。医療連携体制も整っており、過去に看取りの事例もある。看取りについての職員間や家族との話し合いは、今後さらに深めていく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急性が高いと反省した場合や、事前に予測を立てることなど、その時々での対処方法を職員会を通じて指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画のもと、特養と協力体制をとり、訓練を行なっている。災害時は立地的にも近隣の協力は難しいが、地区区長とも運営推進委員会で、検討した結果、施設を避難場所にし、災害の折はお互い協力体制を図る事になっている。施設には非常食も準備しており、共有していく。	隣接の特別養護老人ホームと合同で、夜間想定も含め防火訓練は年2回実施しているが、津波対策を含む地震対応の訓練までは実施していない。地区長が今年の訓練に参加したことを契機に、地震時の津波対策として、法人施設を地域住民の避難場所とする契約は締結しており、詳細についてはこれから詰めていくことになっている。	隣接施設を津波時の地域住民避難場所として受け入れる話が進んでいることから、地域とともに津波避難訓練等を実施し、非常用食料等の備蓄も含めた協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権や尊厳を保ち介護を行うこと、個々の生活歴や人格を大切に適切な言葉がけをするなど、常に職員会にて周知している。また、マニュアルに、沿って個人情報や他人に漏らさないこと、プライバシー保護についても徹底している。	個人の尊厳を守ることは理念にも掲げ、絶えず意識してケアに当たっている。プライバシー保護についてもマニュアルを確認したり、研修に参加した者が研修内容を伝達するなど、周知徹底に努めている。対応に問題があった場合には、その都度注意を促し、改善に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本位の支援を基本に、傍らで内面の思いを感じとること、会話を通じて利用者に自己決定をしてもらうなど、日々の場面づくりに取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームは人として当たり前の自由で安心できる生活の場であり、少人数の生活空間の中で、入居者のペースを優先し、見守る支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせた着衣や、希望に応じて基礎化粧品も購入するなど支援している。また、美容院を定期的に利用したり、男性は髭剃りや散髪などで整容するなど気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事は楽しいものであること、美味しいものを提供すること、家庭の一般の様子と変わりがないことを常に心がけ、スタッフも同じものを食するとともに、準備や後片付け、おはぎやいなりずしを入居者と一緒につったり、食後のコーヒータイムでの語らいを大切にしている。	食事の準備、調理、後片付けなど、手伝うことのできる利用者は一緒に作業を行い、食事の時間を楽しんでいる。献立は利用者の希望を聞き、職員が交代で作成している。利用者の嗜好調査も時々行い、当日の献立を急に変更することもあるなど、利用者が楽しく食事をできるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の水分摂取やコーヒータイムなどを通じて1300ミリリットル以上の摂取を確保している。栄養管理面でも高たんぱくのゼリーなどで補うなど個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に適した歯ブラシを準備し、毎食後歯磨きを行い、歯間ブラシや舌用ブラシも使用し口腔ケアをしている。義歯や残歯の清潔保持についても可能な限り本人ができるように援助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握、個々に適する言葉がけを用いて全員トイレでの排泄を実施している。夜間も入居者の状況に応じトイレに誘導している。残存機能維持にもトイレでの生活リハビリを考えている。	排泄の自立ができている1名を除き、利用者の状況を見ながら全員誘導を行って、トイレでの排泄支援を実施している。状況に応じて夜間もトイレ誘導を行っており、ポータブルトイレの利用者はいない。おむつを使用していた利用者が、トイレ誘導支援により、昼間おむつが不要になった事例もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分の飲用、食後の牛乳を飲む事で排便の効果も出ている。排便のパターンを理解し結果からトイレに誘導を取り入れる工夫もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に添って毎日入浴もしている方もいる。少なくとも2日に一回は入浴できている。必要に応じて清拭対応も取り入れている。入浴の際見守りなど個人の状況に合わせた援助も行なっている。基本的には午後を入浴としている。	基本的に職員が多い午後の時間帯を入浴時間としているが、希望があればその他の時間も対応している。入浴頻度も2日に1回が主であるが、毎日入浴する利用者もいる。寒い時期は、希望すれば車いすの人も浴槽に入れるよう、2人がかりで入浴介助をするなど、可能な限り利用者の希望に沿えるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間も入居者個々に異なり、朝まで安眠できる方、トイレの回数が多い方などそれぞれに合わせた見守り体制をとっている。休息はロビーをいつでも自由に使用でき、来られた際は対応を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報の閲覧や、疾病と薬剤の関係など必要に応じ職員に指導している。服用確認の徹底や誤薬防止の確認、処方の変更の際の引継ぎなども徹底している。また、急性的な投薬には、職員会や引継ぎ連絡帳などで共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞の読み聞かせ、得意な手踊りの披露、子供の頃の思い出話、習字の達人な方など、担当が出来ており、毎日それぞれの好みや得意な面を発揮してもらえるよう支援している。気分転換としてトランプは効果がある。10月には運動会もあり全員参加、紅白になり対抗意識もでる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	併設の特別養護老人ホームには何かにつけて出かけている。また、日常的に自由に散歩したり、買物や外食、四季折々の花見や行楽などにも出かけている。入居者全員で外出する際は、特別養護老人ホームの応援も得て支援している。	ほぼ全員が毎日散歩に出かけている。事業所周辺のサザンカの生け垣を見ながら散歩したり、隣接する特別養護老人ホームに顔見知りの人を訪ねるなど、日常的に外出支援を行っている。時候の良い時は月1～2回は全員で行楽に出かけ、時には外食も楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物代行や通院の際の支払いなど、個人でできる方は自己管理をしている。小額の現金を管理している方へは支払いや残金の確認などを見守りながら支援している。出納帳も作成して本人が持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持し、家族と自由に連絡を取ったり、希望に応じて居室から話せるよう子機を取り次いだりしている。定期的に電話があつたり、手紙も届いている。また、ケアプランに沿って家族と電話で話してもらう例もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した共有のロビーで、キッチン、浴室全てから太平洋を望める。できる限り四季を感じれるように花を置き、居心地よい空間を取り入れている。入居者の憩いの場所でもある。他には七夕、クリスマス、正月などのかざりつけも行い季節を感じて頂いている。	明るくゆったりしたロビーにクリスマスツリーを飾り、壁面には利用者が書いた書道の作品や手作りの日めくりカレンダーを貼り、金魚鉢で金魚がゆったり泳ぐさまを眺めていられるなど、居心地良く過ごせる空間になっている。食堂から温かいだしの香りが漂い、利用者と職員がおやつ時間に一緒に貼り絵をするなど、生活の中の懐かしい香りを楽しみ皆で作業をこなすことができる、程よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者は一箇所に居るのではなく、自室、ロビーでくつろぐなど思い思いの場所で、語り合いながらまた、1人でも行動が取れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大正琴、三味線、趣味をやられる方、使い慣れた家具を置き、家と同じに配置して生活の延長を援助する。夫の仏壇にお供えをする生活、線香に火をつける援助をする事、それぞれの住みやすさを先ず考えた援助を実施している。	家族の協力を得て、テレビ、姿見、衣桁、年代物の小引き出しなどを置き、若いころの短歌の作品、見慣れた風景や家族写真、叙勲の額、仏壇の夫の写真など、利用者の馴染みの物を活かした、温かみと懐かしさが感じられる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本は安全な介護であることを忘れず、出ることや、可能なことを活かして、残されている機能が発揮できるように、生活の援助を行っている。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				